

1. プログラム概要

プログラム名	シンガポール短期体験留学 @南洋ポリテクニク (NYP)
実施期間	2025 年 9 月 2 日（火） から 10 日（水） までの 1 週間
対象	初海外渡航者や異文化交流に興味がある学生
目的及び内容	本学協定校・南洋ポリテクニクにて、英語を学び、現地のバディ学生と交流を行う。そのほか、現地日系企業を訪問も行う。今後の異文化交流や言語学習のモチベーションが高まるような異文化交流を行い、醸成を図る。

2. プログラム成果報告は下段表参照（全参加者のスコア平均）

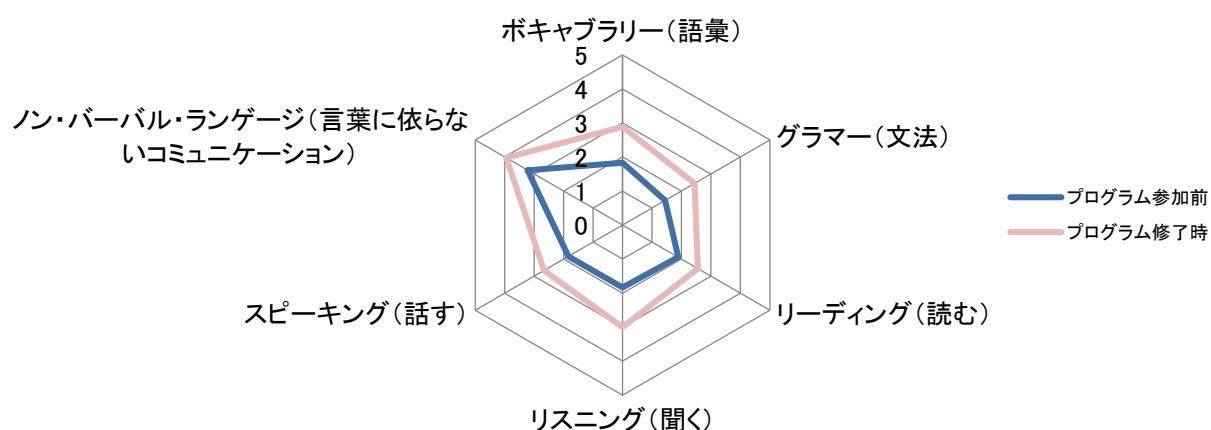
項目	要素	参加前	修了時
コミュニケーション力	ボキャブラリー（語彙）	1.8	2.9
	文法（文法）	1.4	2.4
	リーディング（読む）	1.9	2.6
	リスニング（聞く）	1.8	3.0
	スピーキング（話す）	1.8	2.7
	ノン・バーバル・ランゲージ（言葉に依らないコミュニケーション）	3.2	3.9
語学力合計点		12.1	17.5

異文化適応能力	洞察力	2.5	3.3
	傾聴力	2.3	3.1
	柔軟性	2.7	3.3
	受容性	2.4	3.2
	共感性	2.8	3.5
	持続力	2.0	3.1
異文化適応能力合計点		14.8	19.4

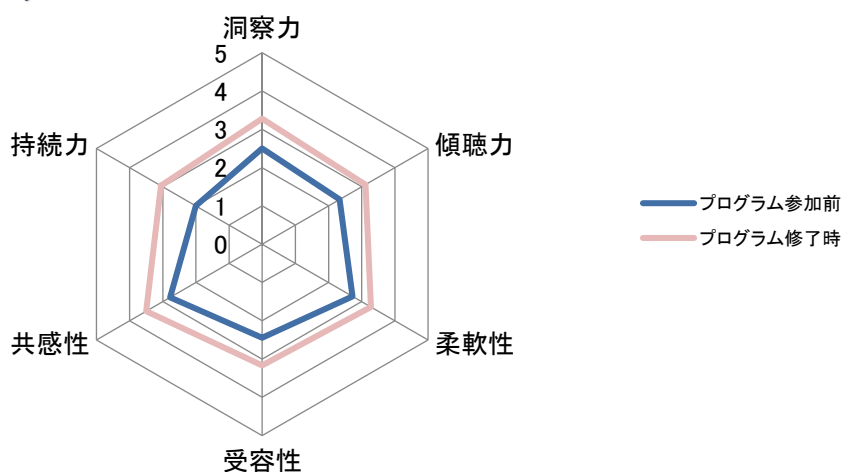
人間力	主体性・積極性	2.3	3.4
	チャレンジ精神	2.7	3.9
	発信力	1.9	3.1
	責任感・使命感	2.1	3.1
	協調性	2.7	3.7
	ストレスコントロール力	3.1	3.6
	規律性	3.0	3.5
人間力合計点		17.8	24.3

3. 自己評価チャート

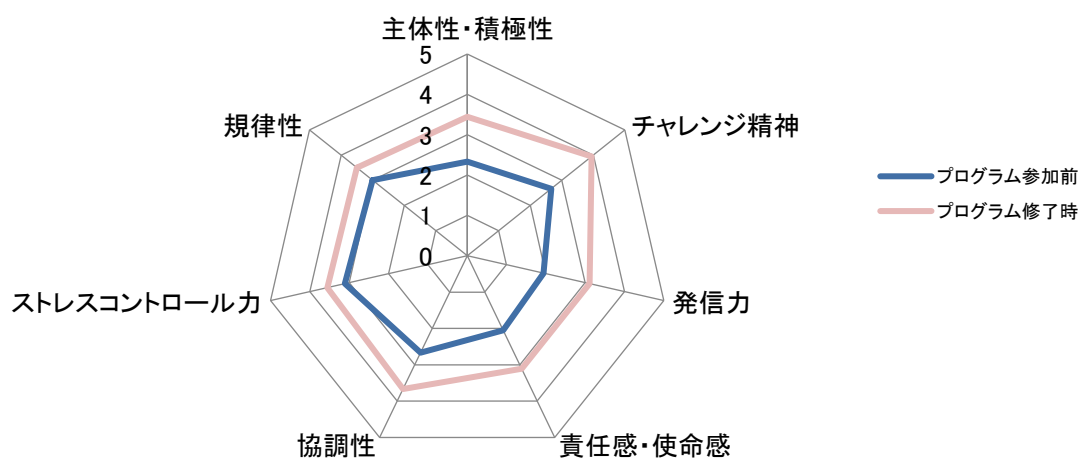
語学力自己評価チャート



異文化適応能力自己評価チャート



人間力、社会人基礎力自己評価チャート



4. プログラム報告書

1 特に専念した学習項目を教えてください。
● 英語、英語でのコミュニケーション、ビジネス英会話 ● シンガポールの文化
2 その成果について教えてください。
● 日本では味わえないような体験をすることができた。 ● 英語でしか話せない環境になると、間違えてもいいから、何とかして伝えなければという気持ちが芽生えて、諦めずに伝える力が付いた。文法や使える単語が増えて、英語で話すことが楽しくなった。 ● 簡単な自己紹介や日常で起こったことを口頭で相手に伝えられるようになった。 ● 外国人とコミュニケーションをとることの不安がなくなった。 ● 現地の学生と積極的に会話を楽しめるようになった。 ● 訛りに惑わされて、コミュニケーションが難しいと感じることがあったが、少し慣れた。
3 現地大学や本学職員の対応はどうか？
● とてもフレンドリーでした。明るくて、優しくいい人ばかりだった。 ● 最初に会ったヌルさんも、自分たちの授業を担当してくれたフェイス先生もとても丁寧に優しく対応してくれて、楽しく授業を受けることができた。
4 大学・学校生活中、トラブルはありましたか？それをどのように解決したか教えてください。
● 電車の扉がすぐに閉まってしまう、自分を含めた日本人学生 3 人とシンガポールの学生 1 人が目的地で降りられなかった。ほかのメンバーに連絡し、次の駅で降りて反対方向の電車に乗ったので無事に着くことができた。 ● 寮の棟番号が間違えて伝えられていて入れなかったが、バディがヌルさんに確認をとってくれて、解決することができた。
5 その他（任意）
● 学校の中にダーツやカラオケ、ビリヤード、ゲームなどがあり、とても海外を感じた。
6 現地の人と交流して気づいた異なる習慣はありますか？異文化コミュニケーション・カルチャーショックを教えてください。
● 2 か国語を話せる人が多く、多様な文化背景を自然に受け入れていると思った。 ● シングリッシュは、中国語とマレー語がすごく混ざっていて、本来の英語の文とは全く違う文章になっていてとてもびっくりした。 ● 現地の人と交流して、日本とは異なる習慣や考え方に多く気づいた。時間の感覚が日本よりもゆったりしていたり、公共交通機関での飲食が禁止されていたりした。 ● 食堂で、ハラルとノンハラルで返却口が分かれていたこと。 ● 夜の帰り道では礼拝をしている人がいるかもしれないから、静かに帰る必要があると言われた時。 ● 言語や宗教が違っていてもそれぞれに対応した生活様式だったり、みんな 2 か国語を話したりしていた。
7 留学プログラムに参加して、身に着けることのできた知識やスキルはどんなものですか？
● 恐れることなく英語を自分から話に行ける力が付き、海外での生活がどのようなものか知ることができた。 ● 積極的に人に話しかけることができ、英語でコミュニケーションをとることができた。 ● 日本との違いがよく分かり、他民族共生の社会がどのようなものかを学んだ。 ● 現地の人や学生との交流を通じて、文化の違いを理解しようとする姿勢や、相手に自分の考えを伝える力も身についたと思う。慣れない環境で過ごした経験は、自分で考えて行動する力にもつながった。 ● 今後、留学生をサポートする側にまわったとき、今回バディがしてくれたことを思い出しながら、安心して広島で生活を送れるようサポートできると思った。
8 留学プログラムを通してどんなことを学び取りましたか？
● 諦めないで伝えること。自分の持っている単語でいいから、なんとか相手に伝えることで、身につく力があると思う。 ● 日本では消極的でも生活ができるが、海外では消極的だと何もできないから、積極的に動かないといけないということを学んだ。 ● 自分が伝えたいことを上手く伝えられず、とても不便に感じたことから、英語という公用語を学ぶことの大切さを学んだ。

- 人とのつながりが本当に大事だと再認識した。コミュニケーションスキルは今後の就職活動などでも必要で、海外で最も必要になるスキルだと気付いた。
- 日本との違いがよく分かり、他民族共生の社会がどのようなものかを学んだ。

9 プログラムに参加して、自分に足りないと感じた知識やスキル等、学生が準備しておくことよりよいことを教えて下さい。

- 英語の表現力や語彙の少なさだけでなく、自分の積極性も足りなかったと感じた。日常会話の練習や文化を少し知らべたり、もっと自分から話しかけたり質問したりする姿勢があれば、交流の幅が広がったと思う。次の学生にはその準備をしてほしい。
- 留学に行く前に Language partner に応募しておくべきだったと感じた。
- 簡単な会話だけでもできるようになっておかないと、スーパーや食事の際での会話や、現地の学生との会話、授業でのやり取りができないので、その辺は必要だと感じた。
- 現金は多く持っていったほうがいい。
- 臨機応変に対応しなければならないところで、あわててしまった。状況把握能力が大切だと思った。

10 制度 ● 通学 ● 学費 ● 生活費 ● 観光などで次の学生に勧めてあげられるものはありますか？

- シンガポールは、すべてを次の学生に勧めてあげたいと思う。街をきれいに保つための制度や、寮が近くにあるので通学しやすいし、全体を通しての費用も個人的なショッピングを除けば全然高くないし、観光スポットもあり、すべてがいい思い出になる。
- 生活費は、基本クレジットカードで払えるが、食事は誰かがまとめて払うことが多く後から現金で返すため、現金を少し多く持って行った方がいいと思う。
- マリーナベイサンズの夜景が今まで見た景色の中で一番きれいだったので、次の人もぜひいってみてほしい。
- 夜更かしはしすぎない。チームで動くので、1人が寝坊すれば連帯責任になる。

11 プログラムを修了し、帰国後はどんな学生生活の計画を立てていますか？卒業後の計画も踏まえて書いて下さい。

- 冬休みに TOEIC500 点取ることを目標に頑張る。Language partner に参加したりなど様々な異文化交流ができるプログラムに積極的に参加し、将来は国際的に活動できる人材になりたい。
- 帰国して、英語を使う場面も減ると思う。なので、経済大学の留学生と交流したり、英語の授業を履修したりして英語を使う機会を増やしたい。資格を取得し、海外の人と関わりのある仕事に就きたいと思っている。
- 就職を日本だけで考えるのではなく、今回だと、シンガポールで就職してみたいと思ったので、将来に向けても視野を広げていき、異文化を実際に体験して、こちら側がバディのような役割を担っていく中で、留学生が不安なく安心して過ごしていけるような環境をサポートしていきたい。
- 来年度は長期の留学や、英語以外の言語も学んでみようと思っている。卒業後は海外の大学や企業へ行くことも含めて考えていこうと思っている。
- 英検や TOEIC に挑戦したい。後期では留学生とかかわる授業をとった。留学で学んだことを生かしていきたいと思う。

12 その他、プログラムへの要望 ● 意見がありましたら記入下さい。

- 1 週間では短すぎた。欲を言えば 10 日間は欲しかった。
- 現地の人と話すミッションがあったらより良いと思う。
- もっと現地の人との交流を密に取りたかった。